

第33期 技術経営塾

2025年7月23日(水)開講
新規塾生募集・体験参加受付中

実務に役立つ技術経営を共に学ぶ

技術経営の知識は本やネットでも学ぶことはできます。しかし、その知識をどのように実務に役立てるのか、実務を遂行する上でどのような障害があり、それを乗り越えるためにはどうすればいいのかということは、苦労を重ねながら技術経営を実践した方々から学ぶ必要があります。

また、実際に技術経営の考えを自社に取り入れるには苦労がつきものです。そこで大切になるのは、技術経営の考えを持っている仲間です。技術経営塾では各企業から選ばれた参加社が集まっており、企業・業種・業界の枠を超えて相談し合える仲間作りができます。

技術経営塾で学んだことを実際の現場で起こっている課題解決に役立て、新しい事業価値の創造にチャレンジしていただきたいと思います。

是非、技術経営の視点から自社の変革をされたいと思われる多くの方にご参加いただけることを願っております。

第33期 技術経営塾 開催概要

- ◆期 間：2025年7月～2026年6月(全12回)
- ◆例 会 会 場：都内会議室でのオンサイト開催、月によってはオンライン(Zoom)との併用開催
- ◆主な受講対象：経営と技術を考え、研究・技術開発に使命感・情熱を持たれている方で
- ◆主な受講対象：積極的な意見発表と交流に参加しうる中堅幹部

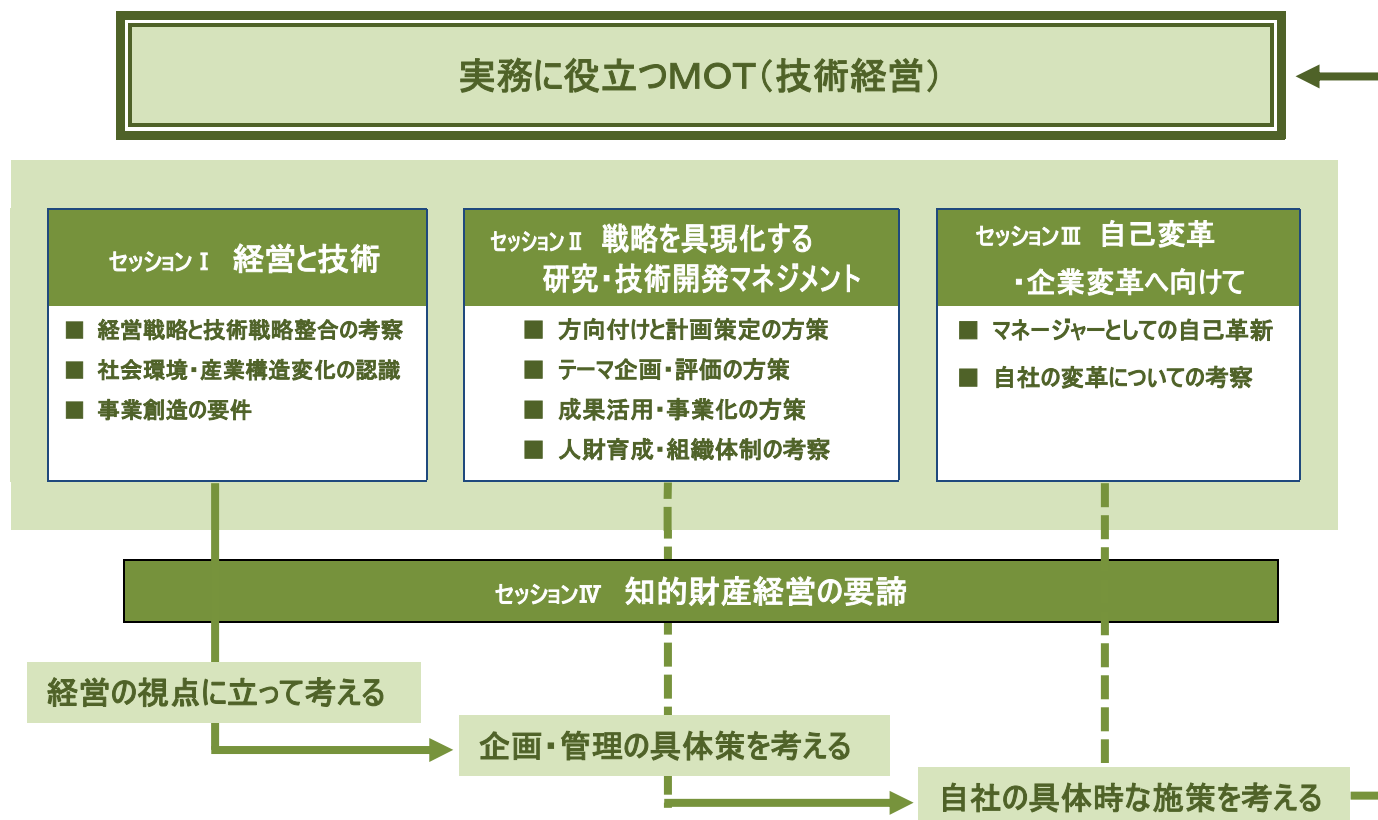
● ご派遣担当（研修部門、教育担当）の皆様へ ●

- ・毎回の例会通知など塾生への連絡事項は、ご派遣担当者様にもお送りします。
- ・ご派遣担当者様の、例会へのオブザーバー参加(見学)も可能です。※事前にご連絡ください。
- ・合宿でのグループ発表資料、修了論文もお送りします。自社塾生の学びの様子や成果、他社塾生の様子も確認いただけます。
- ・事務局では随時、ご派遣担当者様のご相談に応じます。

特 徴

1. 技術経営の経験を持つ実務家のコーディネーターの方々から技術経営の本質と実践を学ぶ
2. 実務家のゲスト講演から様々な事例を学び、自社の成長に活かす
3. 合宿を2回行い、塾生同士が問題提起をし合い日頃の疑問を徹底討議する
4. 毎回出される宿題に対して自社の現状と課題を整理・発表し課題解決につなげる
5. 1年の最後に論文を執筆し、自身のこれからの技術経営への想いや自社への提言を残す

年間のプログラム構成



コーディネーター、基本講義講師 紹介

●コーディネーター

廣瀬 貞夫 氏 元 日本アイ・ピー・エム株式会社 取締役、元 京セラ株式会社 顧問、元 ヤンマーホールディングス株式会社 取締役

1972年日本アイ・ピー・エム(株)研究所入社、漢字プロジェクト企画。1975年IBMサンノセ・リサーチ赴任、日本語入力研究。1979年IBMニューヨーク本社赴任、キングストン研究所事業分析担当。1987年日本アイ・ピー・エム本社で全社の計画部長。1991年営業開発統括本部副統括本部長で2年間営業経験。1992年開発製造本部スタッフオペレーション統括部長として研究・開発・製造部門の人・物・金および期間計画を担当。1999年取締役・開発製造スタッフオペレーションズ担当。2005年日本アイ・ピー・エム(株)同職退任。同年京セラ(株)に入社。事業戦略統括本部で顧問就任。2014年ヤンマーホールディングス(株)取締役、2022年退任。

【主な兼職歴】2002年～2007年総務省独立行政法人評価委員会委員。2004年～2010年九州工業大学監事。

【主な著書】『IPD 革命』編者(工業調査会 2003年)、『PMO 構築事例・実践法』共著(ソフト・リサーチ・センター2007年)、『技術経営・技術戦略と新事業創造のマネジメント』共著(企業研究会 2004年)、『グローバル競争を勝ち抜く技術経営戦略・提言』共著(企業研究会 2009年)

企業が競争力を持ち、持続的に成長していくためには「自社を取り巻く環境変化に如何に対応するのか」ということを先取りしながら考えなくてはなりません。そのためには技術経営の本質を理解し実際に起こっている課題を解決しながら自分なりの対応策を創り上げていく必要があります。特にミドルマネジメントの役割は大きく、将来企業経営を担うために早くから技術経営を学び、技術経営の視点から自部門の課題に取り組むことは、企業の成長につながります。

当塾では課題発表や合宿などで現在悩んでいる自社・自身の課題を出し合う機会でもあり、ぜひ積極的に活用していただき、課題解決に役立ててほしいと思います。

後藤 孝浩 氏 富士フイルム株式会社 バイオサイエンス&エンジニアリング研究所 研究主幹

1987年富士写真フイルム(株)入社、足柄研究所、印刷材料研究所を経て、2008年エレクトロニクスマテリアルズ研究所長、2015年イノベーション戦略企画部、2017年 兼務で先端コア技術研究所長、2019年グラフィックシステム研究所長、2022年バイオサイエンス&エンジニアリング研究所研究主幹。

プロジェクトマネジメントや組織改革に尽力、さらにイノベーション戦略企画部を経験し、オープンイノベーション施設の運営や新規事業開発も実践した経験を持つ。「仕事を楽しむ」をモットーに、新規開発の商品で業界に革命を起こすことを目指し、これまでに3つのイノベーションを実現。その成果は、社長表彰や学会賞を通じて社内外から高く評価を受けている。

大谷 渉 氏 元 株式会社リコー スマートビジョン事業本部 執行役員

リコー入社後、エンジニアとして研究開発部門で15年間、製品開発・実用化開発を行い、その後、経営企画で技術戦略、経営戦略の検討に携わる。2005年から技術発の新規事業開発に挑み、車載モジュールをスタートに、360度カメラTHETA、360度データを活用したSaaSビジネスなどを立上げた。2012年からは全社新規事業開発の責任者として、事業開発プロジェクトの提案～実行プロセス設計および日本、USとインドの事業開発拠点の運営を行う。2018年4月執行役員就任。2023年12月リコー退社。2024年1月より、事業開発ガイドのopen horizonを運営。

企業内の事業開発プロセス全般の経験を持ち、企業内特有の壁を乗り越え、価値創出にフォーカスすることを専門とする。大切にしている価値観は“楽しむ”こと。結果も大事だが、仕事でも人生でも楽しんでやることが重要と考える。

●基本講義 講師

野津 英夫 氏 元 住友スリーエム株式会社(現 スリーエムジャパン) 常務取締役

1965年住友スリーエム株式会社(現スリーエムジャパン)入社、接着剤の開発、ビデオテープ・コンピュータ用テープ等の記録メディアの開発に従事。1993～1996年3M社デジタルメディア研究所部長。1996～2002年技術本部統括部長。2002～2003年執行役員技術担当。2004～2007年常務取締役技術及び環境マネジメント担当

技術経営の本質は「技術価値の事業価値への転換」です。そのためには技術開発から事業化に至る複雑で多様なプロセスをロジカルに理解し、新しい事業価値の創造を目指し勇気をもって自らチャレンジし、リーダーシップを発揮していかなければなりません。

当塾では技術経営の基本となる理論と手法を学んでいただくと共に、実践に不可欠な関連事項を、実際に経験した生々しい失敗事例も交えながら教えていきます。「人を管理するマネジメント」ではなく、厳しい競争環境の中で周りを巻き込みながら、自ら変わり変革を成し遂げる「行動するマネジメント」を当塾で学んでいただき、自社の競争力強化と持続的成長に資していただけることを願っています。

赤羽 正雄 氏 元 セイコーエプソン株式会社 常務取締役、信州大学 名誉教授

1973年諏訪精工舎(現セイコーエプソン)入社、開発部研究員、1990年電子機器事業部海外PC設計部長、1991年 EPSON RESEARCH CENTER(米国カリフォルニア州サンノゼ)シニア・ディレクター、1996年エプソン販売、取締役PCオペレーション部長、1999年セイコーエプソン 取締役研究開発副本部長。2003年常務取締役研究開発本部長。2007年6月同職を退任・退社。2007年6月信州大学教授に就任。2014年3月同大学定年退職。

技術研究開発から事業化までのプロセスは不確実性が高く且つ長期にわたるため、実際に研究開発を完遂し経済価値に結びつけるには様々な困難を伴います。この課題をクリアするためには、経営トップ上司や部下・同僚・関係部門など様々な人を巻き込み、納得と共感を得て、更には協力を受けながら進めていかななくてはなりません。そこでもっとも重要なことは技術者自らが「技術経営に関する理論武装」をすることです。

当塾では、企業経営の基本解説からはじまり、研究開発や事業化、知財や組織に至るまで様々なテーマを扱っていきます。1年を終える頃には、それぞれのテーマに対して自分なりの考えを持って理論形成をし、周りを巻き込む力をつけていただきたいと思います。それが、様々な困難を乗り越えるバックグラウンドになるはずです。

第33期 技術経営塾 年間スケジュール

【セッションⅠ 経営と技術】

第1回例会 7/23(水) 13:00～17:45 ※会場開催のみ

■ 基本講義

「技術経営とは～企業経営における技術・研究開発の役割」

講師：元 住友スリーエム(株) 野津 英夫 氏

1. 持続的成長の達成
2. 持続的成長と研究開発の役割
3. 技術価値の事業価値への転換
4. 経営戦略と研究開発戦略の整合性

■ オリエンテーション、コーディネーターおよび塾生自己紹介、全体懇親会

第2回例会 8/27(水) 13:00～17:00 (～17:45 有志懇親会) ※会場開催とZoomの併用

■ 課題発表とグループ討議

前回の基本講義内容に即した自社課題を持ち寄り、コーディネーターも交えた小グループで討議、そして発表する

■ 基本講義

「技術戦略と研究開発マネジメント」

講師：技術経営塾 コーディネーター 廣瀬 貞夫 氏

1. 激変する経営環境と研究開発に求められる事
2. 経営戦略と技術戦略
3. イノベーションの考え方
4. 研究・技術開発のマネジメント事例
5. 外部資源の活用とオープン・イノベーションの取り組み

■ 有志懇親会(自由参加)

第3回例会 9/24(水) 13:00～17:00 (～17:45 有志懇親会) ※会場開催とZoomの併用

■ 課題発表とグループ討議

前回の基本講義内容に即した自社課題を持ち寄り、コーディネーターも交えた小グループで討議、そして発表する

■ 基本講義

「新規分野開拓の技術戦略と事業創造」

講師：元 セイコーエプソン(株) 赤羽 正雄 氏

1. 企業成長の方向性
2. 9象限ポートフォリオ
3. 技術開発・事業創造を妨げる要因とその対応
4. 先行優位性の構築と享受

■ 有志懇親会(自由参加)

【セッションⅡ 戦略を具現化する研究・技術開発マネジメント】

第4回例会 10/22(水) 13:00～18:40 ※会場開催とZoomの併用

■ 課題発表とグループ討議

前回の基本講義内容に即した自社課題を持ち寄り、コーディネーターも交えた小グループで討議、そして発表する

■ 基本講義

「研究・技術開発の方向付けと計画化」

講師：元 住友スリーエム(株) 野津 英夫 氏

1. 事業成長の基本的枠組みと研究開発戦略
2. イノベーションとストレッチゴール
3. 新製品開発の要点
4. 価値創出のプロセスとマネジメント

■ 事例研究

「R&D戦略策定、組織再構築と推進」

講師：メーカーR&D部門マネージャーを予定

■ 翌月の合宿例会のための事前討議

具体的なテーマの絞り込み、持ち寄る資料の決定、グループ内の役割分担などを決める

第5回例会 11/20(木) 13:30 ~ 11/21(金) 12:00【合宿例会】 ※会場開催のみ

- 1日目 テーマ別グループでの討議とレポート作成(約6時間)、全体懇親会
- 2日目 レポート発表、全体討議、講評

【討議テーマ(予定)】 以下の中から希望別にグループ編成を行います

1. 経営戦略と整合した研究・技術開発戦略の策定とその課題
2. 新規分野開拓のための研究・技術開発戦略の策定とその課題

第6回例会 12/17(水) 13:00~17:30 (～18:15 有志懇親会) ※会場開催とZoomの併用

- 課題発表とグループ討議
前回の基本講義内容に即した自社課題を持ち寄り、コーディネーターも交えた小グループで討議、そして発表する
- 基本講義
「研究・技術開発テーマの企画・評価」 講師: 元 セイコーエプソン(株) 赤羽 正雄 氏
 1. 素質の良いテーマ企画とは
 2. 戦略との整合性、事業部との関係性からのテーマ評価
 3. 獲得した競争優位性を長く保てるテーマとは
 4. 事業創出力と組織の評価
- 事例研究
「研究・技術開発テーマの企画・評価」 講師: メーカーR&D部門マネージャーを予定
- 有志懇親会(自由参加)

第7回例会 2026年 1/21(水) 13:00~17:30 (～18:15 有志懇親会) ※会場開催とZoomの併用

- 課題発表とグループ討議
前回の基本講義内容に即した自社課題を持ち寄り、コーディネーターも交えた小グループで討議、そして発表する
- 基本講義
「研究・技術開発成果活用と新規事業開発」 講師: 技術経営塾 コーディネーター 廣瀬 貞夫 氏
 1. 研究開発成果の創出と活用
 2. 新規事業開発と事業化移行のマネジメント
 3. 新規事業の事業性評価とビジネスモデルの策定
 4. 新規事業とリスクマネジメント
- 事例研究
「研究・技術開発成果活用と新規事業開発」 講師: メーカーR&D部門マネージャーを予定
- 有志懇親会(自由参加)

第8回例会 2/18(水) 13:00~17:30 (～18:15 有志懇親会) ※会場開催とZoomの併用

- 課題発表とグループ討議
前回の基本講義内容に即した自社課題を持ち寄り、コーディネーターも交えた小グループで討議、そして発表する
- 基本講義
「R&D部門の人財マネジメントと組織の活性化」
講師: 技術経営塾 コーディネーター 廣瀬 貞夫 氏
 1. 技術経営に求められる人財とは
 2. R&D技術人財マネジメントの実際
 3. イノベーションを創出する人財と組織風土
 4. イノベーションに欠かせないダイバーシティ・マネジメント
- 事例研究
「R&D部門の人財マネジメントと組織の活性化」 講師: メーカーR&D部門マネージャーを予定
- 有志懇親会(自由参加)

【セッションⅢ 自己変革・企業変革へ向けて】

第9回例会 3/18(水) 13:00~17:30 (～18:15 有志懇親会) ※会場開催とZoomの併用

- 課題発表とグループ討議
前回の基本講義内容に即した自社課題を持ち寄り、コーディネーターも交えた小グループで討議、そして発表する
- 基本講義
「イノベーションの創出とマネジメント」 講師：元 住友スリーエム(株) 野津 英夫 氏
 1. イノベーションをどう理解するか
 2. イノベーションのDNAと持続の必須要件
 3. イノベーションを育む風土と仕組み：事例を踏まえて
 4. 3つの能力・価値創出能力、自己変革能力、人材活用力
- 翌月の合宿例会のための事前討議
具体的なテーマの絞り込み、持ち寄る資料の決定、グループ内の役割分担などを決める
- 有志懇親会(自由参加)

第10回例会 4/16(木)13:30 ～4/17(金) 12:00 【合宿研究会】 ※会場開催のみ

- 1日目 テーマ別グループでの討議とレポート作成(約6時間)、全体懇親会
 - 2日目 レポート発表、全体討議、講評
- 【討議テーマ(予定)】 以下の中から希望別にグループ編成を行います
1. 「研究・技術開発テーマの企画・評価」
 2. 「研究成果と新規事業」
 3. 「R&D部門の人財マネジメントと組織の活性化」

【セッションⅣ 知的財産経営の要諦】

第11回例会 5/20(水) 13:00~17:00 (～17:45 有志懇親会) ※会場開催とZoomの併用

- 課題発表とグループ討議
前回の基本講義内容に即した自社課題を持ち寄り、コーディネーターも交えた小グループで討議、そして発表する
- 基本講義
「知的財産経営と研究開発における知的財産戦略」 講師：メーカー 知的財産部門ご責任者の方を予定
- 有志懇親会(自由参加)

【修了論文】

第12回例会 6/24(水) 13:00~18:00 ※会場開催のみ

- 論文発表
「技術経営推進への提言とその具体策」 (仮題)
(参考／第31期テーマ)「経営環境変化を感知し、新しい顧客価値を創造する技術経営のあり方」
発表者：優秀論文賞受賞者3名程度
 - ・1年間の技術経営塾における各講義の内容、塾生間の意見交流から得られた成果を基に5月に修了論文を執筆
 - ・コーディネーター陣の選定により優秀論文賞受賞者は最終会合で論文内容の報告を行う
 - ・全員分の論文は論文集としてまとめ、塾生全員および参加各社の派遣窓口に配布します
- 総評：指導陣が修了論文に対しての講評と1年間を通しての総評を行う
- 優秀論文賞授賞式、修了証書授与式、全体懇親会

* 例会の詳細については、毎回、事前に書面や電子メールなどでご案内致します。
* 欠席された場合でも、当日の配付資料の提供はあります。

第31～32期ご参加者

出光興産 (株)	生産技術センターエンジニアリング室 動機械技術グループ	日清製粉 (株)	技術開発本部セールスサポートチーム チームリーダー
出光興産 (株)	生産技術センターエンジニアリング室 設備技術グループ	(株) 日清製粉グループ本社	技術本部 生産技術研究所 自動化技術研究室 室長
出光興産 (株)	生産技術センター	日清製粉プレミックス (株)	R&Dセンター主査
出光興産 (株)	生産技術センター	日清ファルマ (株)	事業統括部部長代理
オリエンタル酵母工業 (株)	食品事業本部生産・研究開発統括部研究開発部 食品研究所 所長代理	(株) プリアストン	配管開発部 配管開発第2課 課長
オリエンタル酵母工業 (株)	長浜生物科学研究所主任研究職	(株) プリアストン	開発企画管理部部長
カナデピア (株)	技術研究所	ホーユー (株)	総合研究所 課長
カナデピア (株)	開発本部 技術研究所グループ長	ホーユー (株)	総合研究所 先端技術研究室
(株) クレハ	知的財産部	ホーユー (株)	総合研究所先端技術研究室課長代理
(株) クレハ	中央研究所	ホーユー (株)	総合研究所 製品開発第1研究室課長
(株) 神戸製鋼所	技術戦略企画部戦略企画グループ主任部員	三菱鉛筆 (株)	研究開発センター品川
小林製薬 (株)	サステナビリティ戦略推進室	ヤマハ (株)	研究開発統括部 基盤研究開発部部長
テイカ (株)	東京支店基礎化学品課課長	(株) リコー	先端技術研究所 IDPS第一基盤二G
日清製粉 (株)	技術開発本部流通サポートチーム チームリーダー	(株) リコー	先端技術研究所 IDPS二開室二G
(株) 日清製粉ウエルナ	プロダクトマネジメント統括部第二部開発グループ グループリーダー	(株) リコー	先端技術研究所 IDPS研究センター 一開室二G
(株) 日清製粉グループ本社	R&D・品質保証本部基礎研究所 穀粉加工研究室 室長	(株) ロッテ	中央研究所 アイス研究部 課長
(株) 日清製粉グループ本社	技術本部生産技術研究所 食品粉体技術研究室 室長	(株) ロッテ	中央研究所 アイス研究部 アイス研究二課 課長

第33期 技術経営塾 参加要領

＜体験参加について＞

第1回例会(7/23)は当塾の雰囲気などをご覧いただくため、入塾を検討中の方にもご参加いただけます。

◆ 年会費(受講料) 1名につき 正会員企業 396,000円 一 般 434,500円 *消費税込
(本体価格 360,000円) (本体価格 395,000円)

- ・資料代・通信費・飲食代を含みます。
- ・合宿(1回につき4万円程度)や特別懇親会は別途参加費を申し受けます。
- ・分割払い、お支払時期などお気軽にご相談ください。
- ・何らかの事情で途中でより参加できなくなられた場合も、参加費用の返金は致しませんのでご了承ください。
- ・「正会員」とは、一般社団法人 企業研究会に法人会員として登録いただいている企業です。

◆ お申込方法

当会ホームページよりお申込みいただけます。

企業研究会 技術経営塾 検索

* ご記入いただいた個人情報は、技術経営塾に関する事務連絡および弊社主催事業のご案内に利用させていただきます。ご了承ください。

◆ 担当 一般社団法人 企業研究会 研究交流事業グループ 薄井

〒100-0015 東京都台東区東上野 1-13-7 ハナブサビル
tel:080-1393-5599 ・ 03-5834-3920 / e-mail:usui@bri. or. jp